

実地研修プログラム 福岡県地域生活定着支援センター

研修のアピールポイント

センターの特徴

- 運営母体であるNPO 法人抱樸は、障害者グループホームや見守り支援付き住宅等を運営しており、居住支援法人として受け皿の役割を担っている
- 福岡県では県内の福祉事業所が集う独自の「ネットワーク協議会」を実施。センターが事務局を務める

官民協働の実践例

- ネットワーク協議会において、支援者のスキルアップや領域間の連携強化を目的とした研修会を企画
- 官民協働のワンストップ型窓口を運用している大牟田市居住支援協議会と連携
- 迅速な支援対応を実現するため、重層的支援体制整備事業と連携

1 日目

研修全体のオリエンテーション

I.官民協働：ネットワーク協議会の研修打合せ同席@福岡刑務所

協議会の活動について説明を行い、福祉的支援が必要な対象者の状況や支援現場における課題等について意見交換。その上で、司法と福祉の連携強化を見据えた研修内容等について検討

I.官民協働：福岡地方検察庁刑事政策推進室との打合せ同席@福岡地方検察庁

入口支援実施状況の共有及び、被疑者等支援業務の概要について説明し、円滑な運用に向けて認識合わせ。また、個別ケースの共有とその取扱いの協議に同席

1 日の振り返り

2 日目

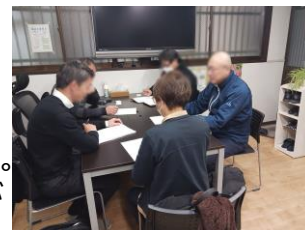
Ⅲ.事務業務：情報共有や支援記録の方法、活用しているデータベースについて説明

Ⅱ.援助技術：福岡保護観察所、福岡刑務所、福岡定着による三者間の定例ケース会議@福岡保護観察所
福岡県内に帰住予定の特別調整対象者について情報共有し、進捗状況の確認、役割分担等を実施

I.官民協働：

①大牟田市居住支援協議会事務局訪問@NPO法人大牟田ライフサポートセンター

官民共同のワンストップ型窓口のスキームや運用状況を学習。その上で、支援ケースの相談及び今後の具体的な連携や支援体制の整備を見据えて意見交換。最後に、同協議会事務局団体が運営する緊急シェルターを視察



②大牟田市保健福祉部福祉支援室訪問@大牟田市役所

重層的支援体制整備事業の担当者等と顔合わせ。今後の連携について意見交換を実施

3 日目

Ⅲ.事務業務：担当者会議@NPO法人抱樸(プラザ抱樸)

母体法人運営のグループホームにて受入れ予定の支援ケースについて担当者会議を実施。今後の受入れに向けて、課題の整理、支援方針や役割分担を検討。その後、法人内の住まい支援や生活支援について説明し、実際にグループホーム居室や交流スペース等を見学



Ⅱ.援助技術：国選弁護士との打合せ同席@精神科病院
入口支援（相談支援業務）ケースについて、国選弁護士と打合せ、当該ケースの引継ぎを実施。併せて支援対象者との面談し、支援ニーズの把握、今後の支援方針等について確認

受講者の声

福岡県は広いですが、様々な連携しながら効率的に支援をしていることを学びました。「誰一人取り残さない試案」という言葉が心に残っています。



テレビ会議システムを使った出口支援の定例ケース会議が、支援者の連携と意思統一に有効と学びました。自センターでも導入を働きかけたいです。

